

2014年(平成26年)4月5日 No.654

2014年 新入社員入社式



入社式での竹下社長の歓迎挨拶(要旨)

新入社員のみなさん、入社おめでとうございます。

マルカキカイは1946年の設立以来、68期を数える歴史と伝統を持っています。当社の企業理念は、『当社は「人生是誠也」を社訓として、「最善の奉仕」をモットーに、「顧客の満足」を使命とし、法令等の順守はもとより、高い企業倫理に基づいた企業活動を実践し、社会の期待に応える企業となる。』で、これは企業が事業活動を続けていく上での行動指針であり、企業として社会の期待に応え、社会に必要な存在となるために、我々役員が常に心がけねばならない行動規範です。

当社は商品・サービスを取り扱う商社で、社員一人ひとりが唯一無二の会社の財産です。能力や知識を更に高めようとする「進取の精神」、何事も最後まで諦めずにやり抜こうとする「熱意と執念」、自分は将来こうありたいと思う「将来の夢」を持つことが、自身の成長と会社の発展の原動力です。

当社は日・米・中・亜の4極体制を核に世界11ヶ国21拠点で事業を展開しています。みなさんが将来活躍

する場所も海外が中心になるでしょう。海外ビジネスのポイントは、グローバル化から更にその国の社会に根ざす「現地化」を進めることです。その為には現地語で会話ができるだけでなく、その国の文化や社会の理解と日本についての理解を深めることで、お互い良好なコミュニケーション関係を築くことが必要十分条件です。

今日から社会人ですが「初心忘れるべからず」で、最初の未熟さをいつまでも忘れることなく、「進取の精神」と「熱意と執念」で「将来の夢」に向かって常に加速を続ける人間になって欲しいと願います。更に仕事の取り組み姿勢として、目の前の仕事は地道にコツコツとやる。単純な仕事、下働き、希望と違う配属など「将来の夢」とほど遠い仕事内容でも、もっと何か工夫できないか、もっと調べてやろう、という前向きな姿勢で取り組むことを望みます。この姿勢を継続は力なりと続けることが、一人前として認められ「将来の夢」に近づく近道です。みなさんが、思う存分に活躍し、より充実した人生を送られることを祈念して歓迎の挨拶と致します。

今月のことば

乾 相談役

○ 変化せよ

世界中が時々刻々と猛スピードで変化している時代である。変化についていくために、自らが変化を続けなければ衰退するのみである。イオンの岡田社長が「変化できなければ亡びる。海外のウエイトが高くなっている。海外で伸ばすことは、日本ではだめだからという消極的な発想ではなく、中国や東南アジアなど大きく成長するマーケットがあるから進出するという積極的な発想が必要である。」と述べておられる。積極的な発想で変化しなくてはいけない。已むを得ず追い込まれてではなく、先取りして前向きな発想で戦略を立案しなくてはいけない。世界で競争に伍していくためには、常に先見性を高め、スピーディーかつ強力に行動することが重要である。誰かがやっている、他から勧められたではなく、果敢に挑戦し先取りを図っていくという心構えで自らを変化させていこう。

○ 会議とは

会議は発表する場であるとともに、協議・討議を行う場である。大事なことは、直接顔を会わせて意見を述べ合う文字通りの「会って」「議する」ことである。会議では言いつけではない責任ある意見を述べあって討議し結論を出すべきである。長時間かけて小田原評定をやっても無駄である。出た結論はしっかりと実行し、その後の経過を確実にフォローしなければならない。委員会が数多く設置されているが、発表だけや意見もでない会議は、時間が無駄なだけである。顔と顔を突き合わせて熱心に衆知を集め、方針を決定していく会議でなければならない。報告や連絡は早く伝達できる手段はたくさんある。折角集まって顔を会わせての会議が、報告・連絡だけでは意味がない。将来の事は誰もが分からないにも関わらず一人の提案で意見も出ず、全てが異議なしで決まるのであれば、会議で討議しているとは言えない。報告・連絡は正確にスピーディーに且つ広範囲に徹底するよう工夫することが大

切である。どしどし意見を出し、討議をして、本当の会議にしよう。有言実行、発言することによって人は成長する。

○ 好調と不調

好調な時には強く見えるが、不調の時は弱く見える。好調の時は自分の力のおかげで達成できたと過信するが、不調の時は自信を無くして消極的になる。往々にして、絶頂時には実力以上のことを計画し、後々失敗に繋がることが多いが、不況で苦労している時に考えることは、割に上手くいくことが多い。不調の時は自信を失わずに、不況はチャンスと思い、多くの対策を講じる方がうまくいく。落ち込まずに知恵を絞って、万策までいかずとも十策でも知恵を絞って対策たてて行動すれば、道は開けるものである。好調時にあっても過信をせず、謙虚により高い目標に向かって行動しよう。

「勝ち戦に不思議あり、負け戦に不思議なし。」

(野村元監督)

好調でも驕らず、不調でも消沈せず。やるべき事をやった結果か、やらなかった結果かを反省することが大事である。

○ 強者と弱者

強者(強い企業、強い部門)は景気が良くなれば最初に業績が回復し、不況になれば一番遅れて落ち込みが始まる。弱者は不況になると真っ先に業績が低下し、景気が回復してもなかなか業績が上向かない。景気と業績とは連動するがその時間差は強者と弱者を見分ける一つの物差しである。自分の部が強者であるか、弱者であるか反省してみよう。強者であれば、満足せず更に業績を上げよう。弱者であれば、何が弱みかを見極めて、補強していこう。好調なのに業績があがらないのは変化していない、改革していないからである。不振の結果は自分にあり。天災的要因より人災的要因がほとんどで、抜本的改革が必要である。やる限りは強者になろう。やりがいいがあり、仕事の面白味も増えてくる。

マルカの動き

3月

動き

3月 3日：新キャンペーンオープニング
訓示

3月 5日：建機全体会議

3月 15日：東南アジア全体会議

辞令

名古屋産業機械第二部 部長	栗栖 俊彦
マルカ・広州副総経理	長尾 学
名古屋産業機械部業務 次長	徳山 克志
大阪産業機械部 次長	金子 哲成
マルカ・広州営業部長	堀 晃輔
岡山支店	安田 和弘
	(3月1日付)

介護保険料率が改定されます

平成26年3月分(4月納付分)から
介護保険料率に変更されます。
個人の保険料率は下記のとおりです。

0.775% → 0.86%

※健康保険料率は現行の5.03%のまま
変更されません。

尚、4月分の給与より変更して天引き致します。

表彰

◆殊勲賞

大阪産業機械部 第一課	丸山 真史
	(※2本受賞)

2013年度

今年度の大阪相互会は、『名店で美味しいものを食べる』をテーマに催しを企画・開催いたしました。

11月17日(日)

神戸ポートピアホテル

フレンチレストラン『トランテアン』

当日は、神戸マラソンと日程が重なり、ポートアイランドはゴール地点ということもあり町全体が大勢の人でにぎわっていました。そんな中、来日していたミシュラン2つ星シェフの魅力あふれるコース料理を、美味しいワインとともに楽しみました。

フレンチということもあり、女性の希望者が多く、メイン料理は勿論、充実したデザートも大好評でした。

大阪相互会

1月18日(土)

帝国ホテル大阪 館『銀座 久兵衛』

今回の催しの中でダントツの1番人気で、予定人数を大幅に上回り、当初1部制の予定でしたが2部制に変更したほどです。

カウンター中心の座席で、すし職人の見事な手さばきと楽しい会話に感動しながらの食事となりました。

九州の焼酎とともに、手の込んだお刺身と握りを堪能した楽しい1日となりました。

1月25日(土)

神戸の中華料理 老舗『第一楼』にて最後の催しが開催されました。フカヒレの姿煮・北京ダックなど質量ともに満足できる料理で、円卓で美味しい料理とお酒で楽しい会話が弾みました。



		タイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	台湾	広州	備考
GDP成長率 (%)	2013年	3.7%	5.9%	4.6%	6.9%	1.74%	7.6%	推定値
	2014年	4.5%	6.2%	5.1%	6.5%	2.59%	7.3%	予測値
物価上昇率 (%)	2013年	2.3%	7.3%	3.5%	3.2%	0.8%	2.7%	推定値
	2014年	2.8%	6.7%	3.5%	4.5%	1.0%	3.1%	予測値
為替相場 (対米ドル)	13/1/10	B32.98	PR12,235	M\$3.33	P44.680	NT\$30.21	RMB6.077	1\$=104.95円
	14/2/10	B32.79	PR12,070	M\$3.33	P44.895	NT\$30.38	RMB6.108	1\$=102.50円
	14/3/10	B32.53	PR11,365	M\$3.33	P45.100	NT\$30.30	RMB5.933	1\$=103.20円
	今後の傾向	↘	↗	→	↘	→	↗	
短期金利		2.27%	7.5%	6.25%	1.87%	4.10%	5.60%	
	今後の傾向	↘	→	→	→	→	→	
失業率		0.62%	6.25%	3.1%	7.5%	4.02%	4.5%	

マルカ駐在員からのコメント

3月12日、タイ中銀は、金融政策決定会合を開催し、政策金利を2.25%から2.00%へ引き下げたことを発表した。

不透明な政治状況が長期化することによって、民間の消費や投資の回復が妨げられ、経済成長に悪影響を及ぼすということ踏まえての判断である。また、インフレ関連指数がやや上昇しているものの、抑制的であると見なしたことも関係している。

これらの状況を鑑みて、金融緩和に踏み切ることが決定された。この決定を受け、ドルパーツの為替相場は、32.40パーツ近辺で推移している。

インドネシア二輪車協会(AISI)の発表によると、2月の国内販売・輸出台数は前月比17.4%増の68万1,267台だった。

インドネシア自動車協会(Gaikindo)の会員集計によると、2月の自動車販売台数(出荷ベース)は確定値で前月比8%増の11万1,767台だった。年初の季節要因やジャカルタの洪水の影響で比較的低調だった1月から持ち直し、再び高水準を記録した。

日系メーカー各社が相次いで投入した低価格エコカー(LCGC)の販売台数は毎月1万4,000台程度に達しており、データを見る限り、「多目的車(MPV)の市場がLCGCに奪われている」状況だ。

マレーシアでは乾燥気候が続いている影響で貯水池やダムなどの水位が大幅に減少傾向にある。

13日午前8時時点でのセラングール州最大のダムであるセラングール川ダムの貯水量は40.53%にまで減少した。貯水量が40-30%以下となった時点で水不足が深刻化していると判断できるといふ。同ダムからは710万人分の水が供給されている。

マキシマス・オンキリエルギー・グリーン技術・水相は、国内で深刻な水不足が続いていることに関して、今後3週間まとまった降雨がない場合は国家安全保障会議(NSC)が非常事態宣言を出す可能性がある」と述べた。

日系主要メーカーが加盟するフィリピン自動車工業会(CAMPPI)の2月の販売台数は前年同月比16.5%増の1万6,828台だった。前月比では7.6%の増加となった。

メーカー別でみると、トヨタ・モーター・フィリピンが前年同月比16.5%増の6,926台、2位の三菱モーターズ・フィリピンズは、同24.1%増の4,409台、3位はフォード・モーター・フィリピンで同47.6%増の1,277台であった。

一方、ホンダ・カーズ・フィリピンは前月に続き2桁減となり、フィリピン日産(NPI)は20.2%減の584台となった。

行政院主計総処は2014年の台湾の経済成長率予測値を2.82%と発表した。また、一人当たり国内総生産(GDP)は2万1,153米ドル、一人当たり国民総生産(GNP)は2万1,753米ドル、消費者物価指数(CPI)上昇率は1.07%と予測した。

主計総処は、先進国の安定的な回復がみられる上、台湾国内の消費環境も改善していることから、今回輸出および民間消費の予測を上方修正したと説明した。

また、輸出好調の継続と国内需要の回復が牽引して輸入が増加すると予測し、輸入の予測値も上方修正した。

大気汚染PM2.5といえば北京、天津、上海などがニュースでも大きく取り上げられているが、広州もこの冬は空気の質を示す指標である「AQI」が200を超える日もしばしばあった。

AQI指数は5段階に分かれており、200超えは201~300の重度汚染にあたる。日本の指針での「不要不急の外出を控える」がAQI指数では150にあたるため、かなり深刻な状況であるといえる。

日本からマスクの現物支給があったが、なぜか広州市内でマスクをしている人を見かけない。駐在者も半ばあきらめているのかマスクをしている人は見かけない。長期の駐在となると慣れが心配だ。

2014年度 建設機械部門 全体会議開催

3月5日(水)本社にて、国内、海外の営業拠点より建設機械部門の社員、オブザーバを含め、23名が出席し、2014年度建設機械部門の全体会議が開催されました。

釜江会長の訓示からスタートし、吉儀本部長から「経営プラン達成のための施策」、杉浦経営企画室長から「全社経営プランについて」の発表があり、その後、各部から2013年の達成状況、2014年度営業目標に対する進捗状況と今後の見通しについて発表がありました。今回は、昨年10月に業務開始したシンガポール事務所よりFOO所長も参加し、東南アジアを含むシンガポール事務所の活動と今後の展望報告を行いました。

また、ジャパンレンタルの高岡常務から業績報告と今後の展望についての発表、砂河副本部長からは、「今後の海外展開」と「VISION 2020」の発表



がありました。

最後に竹下社長に総括いただき、会議は終了いたしました。「REGIONAL」から「GLOBAL」へ、V字回復する建設機械業界において、各地で展開する社員が一堂に集まり、同じ目標へ向かっていく熱気あふれる結束の場となりました。

2014年度 東南アジア全体会議開催

3月15日(土)マルカベトナム社にて、東南アジア全体会議を開催し、タイ、インドネシア、マレーシア、インド、フィリピン、ベトナムの6拠点責任者と、本社から竹下社長、飯田管理本部長が来越し、総勢11名が集結しました。

竹下社長より「日米中垂4極体制 新たなステージへ」についての訓示、飯田管理本部長から中期経営計画についての説明、真鍋東南アジア統括本部長から東南アジアが力強い極となる事業展開についての指示で始まりました。

各拠点の責任者からは、今期のPDCA及び中期経営プランの進捗状況について発表する形で進み、各拠点の社員採用や育成状況、問題点や要望事項の具申、情報交換を行い、『東南アジア



地区での各拠点の拡大が急務である』と各自が意を新たにする白熱した会議になりました。

会議終了後は、ベトナム中部都市・フエの郷土料理を食べながら、目標に向けて団結力を高める事が出来た一日でした。

取扱商品

ナストーア溶接テクノロジー株式会社

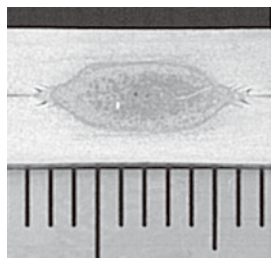
インバータ式 コンデンサ溶接機 (メサコン)

- 溶接電流と通電時間は直接設定
- 設備容量は単相交流溶接機の1/10
- 熱変形の少ないきれいな溶接仕上げ
- 軟鋼・ハイテン材・アルミの溶接に最適

特許取得 第3667428号

特長

溶接例



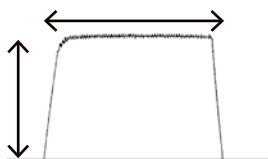
アルミ A5052
板厚 3.0mm



電流の再現性

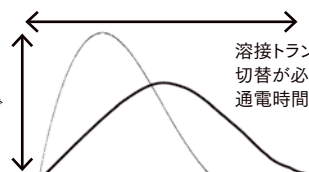
通電時間は1msec単位で直接設定

溶接電流は100A単位で直接設定
定電流制御で再現性が優秀



メサコンの溶接電流波形

充電電圧の調整で溶接電流を決定
再現性が劣る



従来の溶接電流波形

溶接トランスのタップ切替が必要。2通りの通電時間設定のみ

仕様

形式	POCI-2000	
入力電源	3φ 200V	
入力容量	kVA	24
最大出力電流 A/ 通電時間 msec	200,000/30	
通電時間設定	msec	1~100
最大溶接回数	回/min	12
加圧力	kN	49.0
加圧ストローク	mm	120
ふとところ (開き×深さ)	mm	200/300
プラテン (上部/下部)	mm	300□/300□
機体形態	門型	

制御装置

形式	CIT-2027-4 (2台)※	
最大エネルギー	kJ (Ws×10 ³)	58.8

スポット溶接能力 (板厚の目安)

アルミ合金	4.0
軟鋼 (磨き)	-

※CIT-2027-4の他にコンデンサBox・トランスBoxがセットとなります。

お問い合わせは

マルカキカイ株式会社

本社・支店の産業機械部へ